



NET 15kg
粉・ペレット状

成分分析値(%)

全窒素	全リン酸	全加里
3.0~4.0	4.0~5.0	2.5~4.0

バクチャーゼKは、バクチャーゼ(有機物発酵微生物資材)により処理された資材である。様々な用途に対応できるように、三要素をはじめマグネシウムやカルシウムが含まれており、使用しやすく効果の高い資材である。そのため、稲作はもちろんの事、畑作やハウスなどの施設園芸や家庭菜園まで幅広く使われている。

●使用目的

バクチャーゼKには主に三つの使用用途がある。

未熟有機物の堆肥化促進

水田の稲ワラや畑の残渣の分解促進・腐植増大効果。

堆肥作成時の発酵促進や未熟堆肥の土中発酵促進。

ポカシ肥としての効果

稲や畑の元肥・置き肥などの追肥として、三要素や微量元素の供給効果。

ハウスなどの太陽熱処理

土中未分解残渣の分解促進、発酵熱による地温上昇・有効微生物の供給などの相乗効果で悪玉微生物(土壌病害菌)を抑制し、有効微生物が優位な土壌環境に改善する。

●水田での使用

稲作では収穫後に残る稲株やワラをしっかりと分解しておかないと、ガスわきやそれに伴う根腐れなどの影響で毛細根の発達を著しく悪くさせる。そのため、リン酸やカルシウムなどのミネラルの吸収が不足し、軟弱・徒長・生育不良など初期生育の妨げとなり、ひいては倒伏・イモチ病の原因となってしまうので注意が必要である。



ガス害の写真

●使用方法

畑の使用方法(10a当たり)

- 露地畑の収穫後
10~20袋/10a
収穫終了後、堆肥とともに施用、その後耕起
- ハウスの収穫後
20~30袋/10a
収穫終了後、堆肥とともに施用、その後耕起
- 秋冬野菜の元肥
15~20袋/10a
(窒素成分:7~10kg)
作付け2週間前までに施用(特に播種もの)
不足窒素分は、NK化成などを利用してください

水田の使用方法(10a当たり)

- 収穫後、全面散布し耕起する。
普通地力田:3~4袋
低地力田 :5~6袋
モミ殻還元田(10a分のモミ殻)
:上記プラス2~3袋
- ※耕起は数回(最低2回)行い
回数を重ねるにつれて深く耕
起する

●畑での使用

畑作では、収穫後の残渣処理に圃場での土中堆肥化を行ったり、露地野菜の元肥・追肥などにも使用している。定植前の土作りとして、あるいは、化成肥料の元肥量に3~5割程度バクヤーゼKを加えることで中~後半の肥効を確かなものにすることができる。

●使用事例

ナバナの事例では、毎作生育が揃わず、同じ圃場内で生育がばらばらという相談に対して、収穫後のバクヤーゼKでの処理を2~3年続けていただく提案をしたところ、2年目には欠株もなく生育が見事に揃うようになった(下段写真)

●ハウスでの使用

ハウスでは、太陽熱処理などに利用されている。この処理の有効率を上げるには、地温をいかに高温で維持させるかがポイントとなるが、バクヤーゼKは、高温発酵を得意とする有効微生物群の資材なので、太陽熱処理には非常に適した資材である。



生育が揃ったナバナ